

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	②-10	実施計画番号	13	事業開始年度	平成26年度
事務事業名	農業用使用済プラスチック適正処理推進事業			事業終了年度	平成28年度
担当課名	農林畜産課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等				関連事務事業	
背景や経緯等	十和田おいらせ農業協同組合や十和田市葉たばこ生産振興会が行う使用済みプラスチックの処理事業を利用して、適切な処理を行っている農家に対し、処理費用の一部を補助する。				
事務事業の目的	農業用プラスチックの適正処理を推進し、負担の軽減と、環境に配慮した農業振興を図る。				
実施状況	十和田おいらせ農業協同組合や十和田市葉たばこ生産振興会が使用済みプラスチックを適切に処理をした。それに対し、市から事業費の一部を補助した。				

## 【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	20	20	20
	人件費(千円)	720	720	720
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

## 【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		2,623	2,523	3,800

## 【指標】

活動指標	活動指標名①		塩ビ系・苗箱の処理人数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			人	271	292	
	活動指標名②		ポリ系の処理人数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			人	696	671	
成果指標	成果指標名①		塩ビ系・苗箱の処理量			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			kg	18,000	18,000	18,000
				21,015	24,329	
				117%	135%	
	成果指標名②		ポリ系の処理量			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			kg	260,000	260,000	260,000
				180,407	168,667	
				69%	65%	

## 十和田市事務事業評価シート

### 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 <b>0 / 4</b> 環境の保全のため、適正な処理が図られており、事業の妥当性は十分にあると考えられる。
	② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	4	成果向上の余地 <b>2 / 6</b> 処理量に変動はあるが、目標達成に向け推進していく。
	④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1		
	⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1		
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 <b>0 / 6</b> 十和田市農業用使用済プラスチック適正処理協議会が行う農業用使用済プラスチック適正処理推進事業に補助することで効果的な実施となっている。
	⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
	⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 <b>0 / 4</b> 農業用使用済プラスチック適正処理推進事業により、適正な処理を行っている農家に対して処理費用の一部を補助しているため、受益の偏りはなく受益者負担も適正である。
	⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
			現在の適性	18 / 20	改善の余地 <b>2 / 20</b>	

### 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **18** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **2** 点です。

### 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

**有効性を改善して継続**

#### 方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

環境に配慮し適正な処理に取り組みます。

#### 今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

負担の軽減と環境に配慮し、農業用使用済プラスチックの適正処理を継続する。